

# 株式会社レスターホールディングス

2020年3月期第2四半期  
決算補足説明資料

2019年11月13日



# 2020年3月期第2四半期 連結業績



# 業績ハイライト

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計 (※)		2020年3月期2Q累計		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減金額	増減率
売上高	197,804	—	202,984	—	5,180	2.6%
売上総利益	13,328	6.7%	13,347	6.6%	18	0.1%
販管費	8,725	4.4%	9,862	4.9%	1,137	13.0%
営業利益	4,603	2.3%	3,484	1.7%	△1,118	△24.3%
経常利益	3,973	2.0%	5,633	2.8%	1,659	41.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,979	1.5%	4,446	2.2%	1,467	49.2%

※2019年3月期 2Q累計は、(株)U K Cホールディングス (U K C) と(株)バイテックホールディングス (バイテック) の単純合算

売上高：主に調達事業、電子機器事業、環境エネルギー事業が堅調に推移し、売上高が伸長

営業利益：経営統合におけるのれんの償却額594百万円（暫定）を販管費に計上、  
過年度貸倒引当金回収額（販管費の戻入）の縮小等により減益

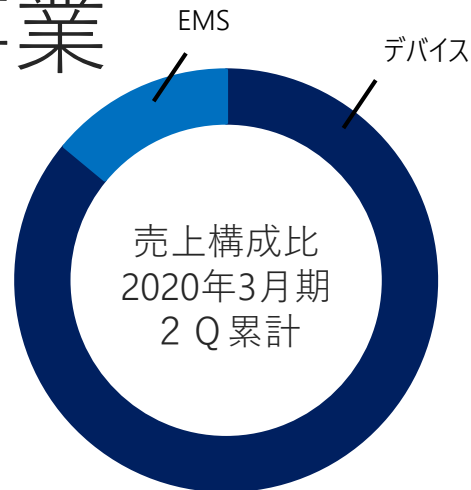
経常利益／親会社株主に帰属する四半期純利益：

2019年5月13日に開示した「株式の取得（持分法適用化）に関するお知らせ」に関する  
持分法による投資利益2,901百万円（営業外収益）の発生等により大幅な増益



# 半導体及び電子部品事業

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計(※)	2020年3月期 2Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	157,577	149,438	△8,139	△5.2%
セグメント利益	3,610	2,264	△1,346	△37.3%



※2019年3月期2Q累計におけるU K Cの「半導体及び電子部品事業」及び「信頼性試験／分析サービス事業」並びにバイテックの「デバイス事業」（計測機器事業を除く）の合算値

## ■デバイス事業

- ・経営統合のシナジーは順調に進展  
→顧客・商品ラインナップ拡大による新規の需要開拓への取組み、拠点の統合・コストの圧縮、取引条件の改善
- ・スマートフォン、デジカメの需要減やメモリの価格低下等の要因により売上高は若干減少
- ・過年度貸倒引当金回収額（販管費の戻入）の縮小及び一部在庫の評価減による影響等により減益

## ■EMS事業

- ・海外での情報通信端末向けのディスプレイ関連ビジネスが好調に推移し、EMS事業は増収増益

※連結子会社のうち決算が12月期のものについて、決算期の変更及び仮決算による取込みを行いました。

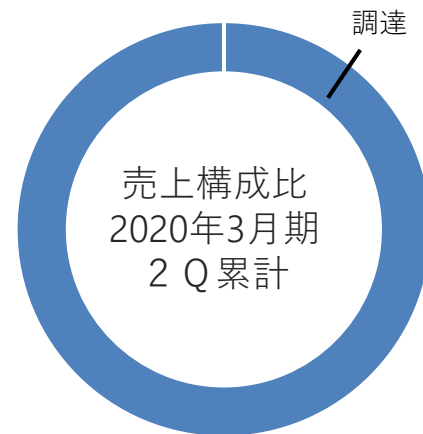
2020年3月期2Q累計には対象会社の2019年1月から3月の業績を含んでおります。（売上高8,946百万円、セグメント利益249百万円）



# 調達事業

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計(※)	2020年3月期 2Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	26,778	38,053	11,275	42.1%
セグメント利益	290	207	△83	△28.6%

※2019年3月期2Q累計におけるバイテックの「調達事業」の値

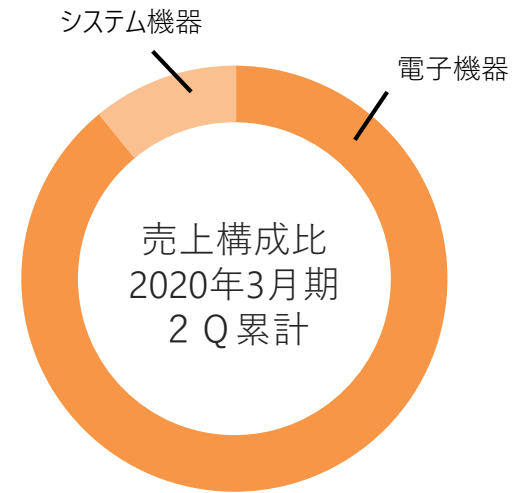


## ■調達事業

- ・パナソニックグループとの協業強化による車載・P C 関連部材の増加、台湾W P Gグループとの合併会社VWPGによるP Cメーカーへの販売寄与等により売上高は大幅増
- ・円高基調の影響等によりセグメント利益は若干減少
- ・デバイス事業との連携による新たな顧客への展開や、共通オペレーションの効率化といった新規取組みも開始

# 電子機器事業

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計(※)	2020年3月期 2Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	9,414	11,377	1,962	20.8%
セグメント利益	87	454	367	421.5%



※2019年3月期2Q累計におけるU K Cの「電子機器事業」及び「非接触ICカード関連事業」並びに  
バイテックの「計測機器事業」の合算値

## ■電子機器事業

- ・放送局や企業・団体における大型案件の増加、4 K への設備切替え需要における売上増
- ・設計から施工・保守まで含めた高付加価値ビジネスの拡大やコストの徹底的な見直しにより増益

## ■計測機器事業

- ・電波分野における計測機器が堅調に推移

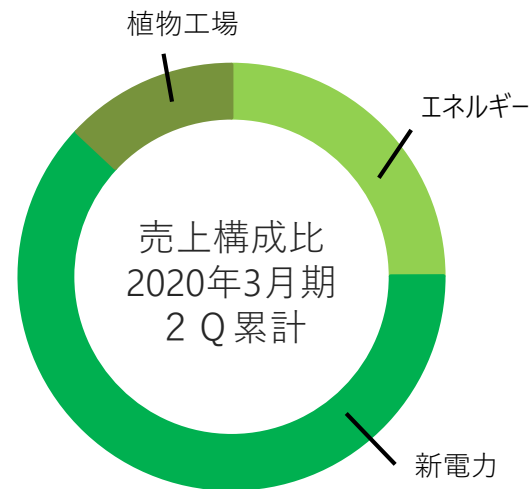
## ■システム機器事業

- ・決済用キャッシュレス端末や出入管理端末等が好調に推移

※売上高の伸長とコスト削減効果等によりセグメント利益も拡大

# 環境エネルギー事業

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計(※)	2020年3月期 2Q累計	前年同期比	
	金額	金額	増減金額	増減率
売上高	5,405	5,658	252	4.7%
セグメント利益	702	827	125	17.9%



※2019年3月期2Q累計におけるバイテックの「環境エネルギー事業」の値

## ■エネルギー事業

- ・新規太陽光発電所向けのパネル等の販売が大きく伸長、太陽光発電、風力発電の発電収入が堅調に推移したことで、売上高が増加
- ・海外における発電事業にも積極的に取り組む方針

## ■新電力事業

- ・新規顧客の獲得とともに、電力卸市場への依存度を下げ、仕入れコストの低減策（固定化）を実施

## ■植物工場事業

- ・日本最大級の供給体制を確立、商品ラインナップ拡充による大手コンビニエンスストア等を始めとした業務用市場への販売が増加。全5工場でGLOBALG.A.P.を取得し、安全衛生品質の向上を実現

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2019年3月末 (※)	2019年9月末
<b>資産の部</b>		
流動資産	147,194	141,255
固定資産	31,973	58,960
資産合計	179,166	200,216
<b>負債純資産の部</b>		
流動負債	102,982	107,308
固定負債	18,656	19,080
純資産	57,529	73,827
負債純資産合計	179,166	200,216
自己資本比率	—	35.3%
BPS (円)	—	2,351.89

※2019年3月末の数値は、U K Cとバイテックの単純合算





# キャッシュフロー

(単位：百万円)

現金及び現金同等物の期首残高	12,961
----------------	--------

■ 営業活動によるCF	3,177
-------------	-------

> 税金等調整前四半期純利益、たな卸資産の減少が主な要因

■ 投資活動によるCF	△11,146
-------------	---------

> 関係会社株式の取得による支出が主な要因

■ 財務活動によるCF	7,653
-------------	-------

> 短期借入金の純増加、配当金の支払い等が主な要因

---

■ 換算差額等	5,635
---------	-------

現金及び現金同等物の四半期末残高	18,280
------------------	--------

# 2020年 3 月期 通期業績予想の修正

# 通期業績予想の修正

【単位：百万円】

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり当 期純利益
前回発表予想（A） （2019年5月13日）	410,000	8,000	6,500	4,000	133円03銭
今回修正予想（B）	410,000	7,000	8,000	5,500	182円91銭
増減額（B－A）	－	△1,000	1,500	1,500	－
増減率（％）	－	△12.5	23.1	37.5	－
（ご参考）前期実績 （2019年3月期）	205,771	4,508	4,198	2,192	139円69銭

## ■業績予想修正の理由

販売管理費に本経営統合によるのれん償却額の影響額594百万円（暫定）、並びに営業外収益に2019年5月に行った菱洋エレクトロ株式会社の株式取得に伴う「持分法による投資利益」2,901百万円の計上による影響を織り込んだことによるもの。

※2020年3月期2Qで暫定的に計上している経営統合に掛かるのれんの確定額、半導体及び電子部品事業における仕入先（中華映管股份有限公司）の会社更生手続の申立てによる影響については、詳細が確定次第お知らせいたします。



# 株主還元方針

## 総還元性向※：50%以上

※配当及び自己株買いによる株主還元の合計金額を純利益で除した指標

- ・中期的に安定的かつ継続的な配当の維持
- ・将来の成長に向けての戦略投資を積極的に実施することで、  
更なる利益の拡大・継続的な資本効率等の改善と向上を実現

▼（参考）2020年3月期 配当（予想） ※従来予想より変更無し

	1株当たり配当金（円）		
基準日	第2四半期	期末（予想）	合計（予想）
2020年3月期	35円00銭	45円00銭 （普通配当35円00銭） （記念配当10円00銭）	80円00銭 （普通配当70円00銭） （記念配当10円00銭）

# TOPICS



# 経営統合の進捗

## 両社類似ビジネスの事業統合

- ・UKCの「半導体及び電子部品事業」とバイテックの「デバイス事業」を統合
- ・UKCの「電子機器事業」とバイテックの「計測機器事業」を統合

## 統合による他社との共創・ラインカードの広がり

- ・(株)インフィニテック株式をパートナーであるPCIホールディングスへ一部譲渡し合弁化
- ・UKCとバイテック双方の顧客へクロスセルを開始、両社リソースの有効活用

## ホールディングス・管理機能及び拠点の統合

- ・たすき掛けのない新組織への一本化
- ・国内・海外拠点の集約→2019年10月末で全拠点完了



# カーエレクトロニクス技術展

株式会社レスターエレクトロニクス(REC)が、

**第2回名古屋カーエレクトロニクス技術展**に出展いたしました。



カーエレクトロニクス技術展とは、カーエレクトロニクスの進化を支える半導体・電子部材、ソフトウェア、テスト技術等が一堂に出展する専門展で、2019年9月18日～20日の3日間名古屋で開催され、約3万7千人が来場いたしました。

RECからは、**自社開発のAI画像認識搭載カメラモニタリングシステム**をはじめとした車載用製品を中心に、**製造現場の検査ソリューションとしてマシンビジョンカメラ+AI**等を提案し、RECブースにも多くの方に来場していただきました。



# 植物工場事業

株式会社バイテックファーム七尾の中能登工場を、2019年10月28日宮本周司経済産業大臣政務官、馳浩衆議院議員に視察いただきました。

植物工場事業においては、全5工場体制となり、日本最大級の供給体制が確立いたしました。また、商品ラインナップも拡充し、業務用市場への販売も増加しております。



近年の気候変動の影響もあり、植物工場野菜の需要も拡大しております。今後は大学との共同研究開発等を加速させ、植物工場事業のさらなる進展を目指してまいります。



# パートナー企業との共創

- ✓ 事業規模の拡大・技術領域の拡大
- ✓ 新たな市場・新たな顧客層とのビジネス創出

PCIと当社との合併会社であるVSE(株)と(株)シスウェブとの合併

PCIグループとの「技術」を軸とした資本業務提携をさらに強化

▷PCIグループ：当社の資本業務提携先。エンベデッドソリューション事業、ビジネスソリューション事業、IoT/IoEソリューション事業、半導体トータルソリューション事業を主とした情報サービス業を展開



# APPENDIX



# 事業内容

半導体及び  
電子部品事業

## 半導体・電子部品

- ・国内外の最先端デバイス及びエネルギー・環境関連商材の販売
- ・幅広い商品群と高度なサポート、技術サービスによるソリューション提案

半導体及び  
電子部品事業

## 信頼性試験・環境物質分析サービス

- ・デバイスや電気電子製品等に対する各種評価試験及び有害物質化学分析

半導体及び  
電子部品事業

## システムエンジニアリング

- ・センサー技術をはじめとした半導体及びLSI設計、評価、テストサービス



# 事業内容

半導体及び  
電子部品事業

## EMS

- ・自社工場における有機ELパネル向け部材等の実装及びそれに伴う購買、生産管理、品質保証

調達事業

## 調達

- ・顧客ニーズにマッチしたグローバルな調達トレーディングサービス
- ・調達関連のアウトソーシングを請け負う調達付帯業務受託サービス

# 事業内容

電子機器事業

## 電子機器

- ・放送、映像、音響、通信機器の設計、施工、保守
- ・最先端の映像、音声、データ処理技術によるソリューションの提供

電子機器事業

## 計測機器

- ・特殊な測定技術、利用技術、システム技術・設計ノウハウ等のアプリケーション提供
- ・修理、計測校正サービス等の研究、開発、販売サポート

電子機器事業

## システム機器

- ・FeliCaを始めとしたNFC（近距離無線通信）技術の応用製品開発、製造販売



# 事業内容

環境  
エネルギー事業

## 再生可能エネルギー

- ・太陽光発電所、風力発電所等による再生可能エネルギーの導入、地域普及に向けた運営管理サービス

環境  
エネルギー事業

## 新電力

- ・再生可能エネルギーを中心とした電力の供給、売買の仲介、電力コンサルティングによる総合エネルギーのマネジメント

環境  
エネルギー事業

## 植物工場

- ・コンビニエンスストア、外食チェーン等の業務用市場へ向けた完全閉鎖型の植物工場産野菜の製造・販売



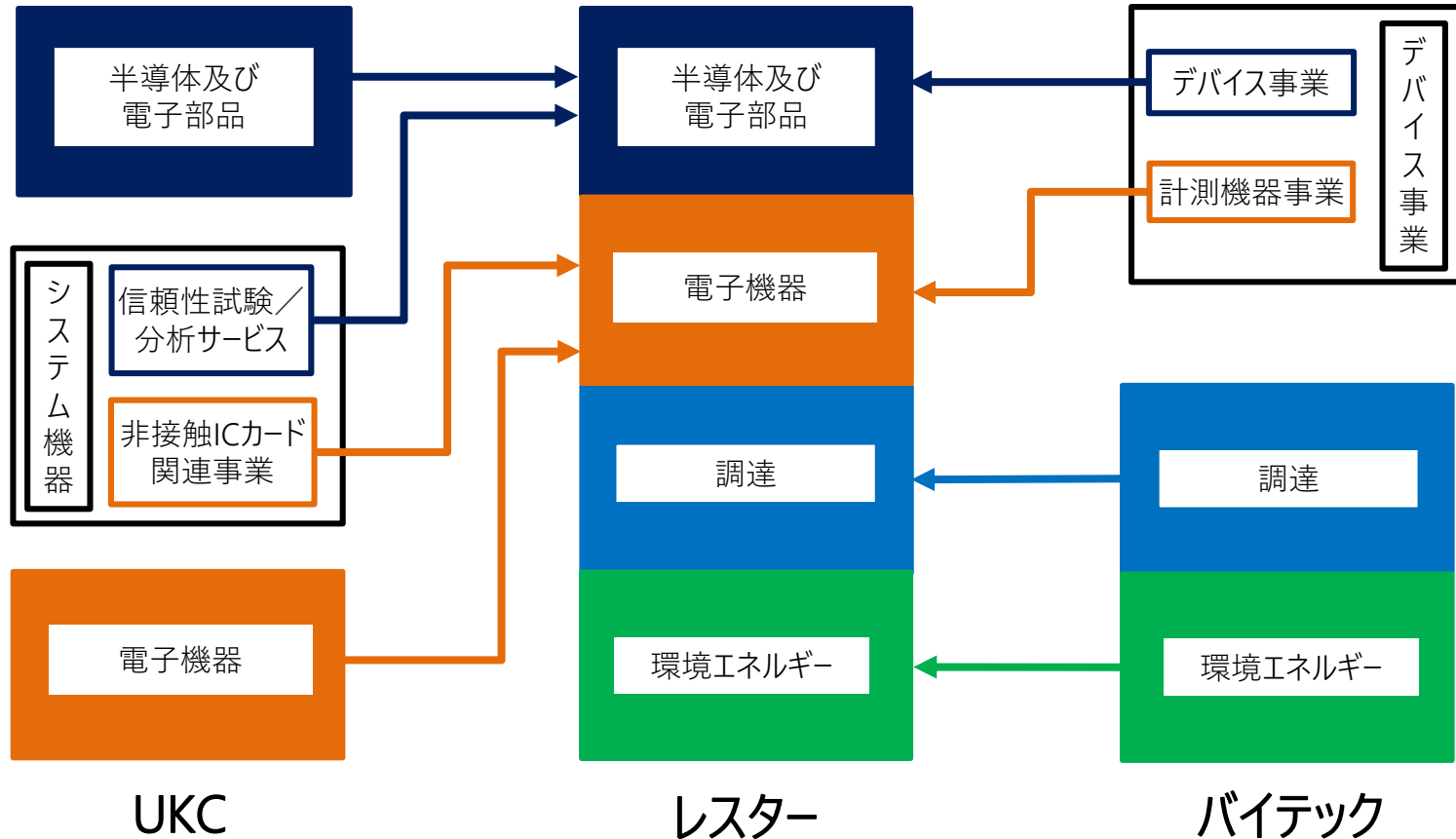
# セグメント構成比



■ 半導体及び電子部品 ■ 調達 ■ 電子機器 ■ 環境エネルギー

※両社の2019年3月期通期の数値を新たなセグメントに組替えております

# セグメント組替図





# 売上高推移

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	レスタ 2020年3月期予想
U K C	273,752	301,449	205,771	410,000
バイテック	138,841	185,883	188,519	
合計	412,593	487,332	394,290	

※UKCとバイテックの単純合算

# 連結損益計算書（2019年3月期）

## ▽株式会社UKCホールディングス

	第9期 自2017年4月1日 至2018年3月31日	第10期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	前年 同期比
売上高	301,449	205,771	▲ 95,678
営業利益	4,384	4,508	124
経常利益	3,908	4,198	290
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,129	2,192	63

## ▽株式会社バイテックホールディングス

	第31期 自2017年4月1日 至2018年3月31日	第32期 自2018年4月1日 至2019年3月31日	前年 同期比
売上高	185,883	188,519	2,636
営業利益	3,130	4,137	1,006
経常利益	2,573	2,789	226
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,840	1,761	▲ 79

# レスターグループ 経営理念

## ミッション

情報と技術で、新しい価値、サービスを創造・提供し、  
社会の発展に貢献します

## ビジョン

あらゆるニーズに対応できる  
エレクトロニクス総合商社を目指します  
世界・社会貢献・共創と革新

## バリュー

- ・多様な考えを受け入れ共創を通じて新しい文化や価値を創り出します
- ・常に高い目標を掲げて革新的な発想と情熱で挑戦し続けます
- ・活躍の場を世界へと広げ持続可能な社会の発展に貢献します

## <お問い合わせ先>

広報・CSR・IR部 高嶋、吉田、渡邊

Mail to : [irpr@restargp.com](mailto:irpr@restargp.com)

---

### <将来の見通しに関する注意事項>

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。